



Seijun Ninomiya

1960年愛媛県生まれ。
オリンピックやサッカーW杯など
国内外で幅広く取材活動を展開。
地域密着の総合型スポーツクラブづくりにも取り組む。
東北楽天ゴールデンイーグルス経営評議委員、
日本サッカーミュージアム
アドバイザーボード委員なども務める。
株式会社スポーツコミュニケーションズ代表取締役。

二宮 清純 の
ス ポー ツ と し
ま ち お こ し
2



広島カープはなぜ地元で愛されるのか

二宮清純

スポーツジャーナリスト

ープに興味を持つようになったのか。彼女たちが選手の魅力とともに、その理由にあげていたのが球場のホスピタリティである。

2009年に完成した新球場は総天然芝で開放感があることに加え、ウッドデッキや寝ソベリアという名の新タイプの観客席を設けるなど、アミューズメント性に満ちているのだ。

野球の本場アメリカでは、球場のことを「ボールパーク」と呼ぶ。そこに身を置くだけで心が晴れ、気持ちが高ぶる。

メジャーリーグ30球団のうち、28球団が総天然芝の球場を持つ。スタジアムに詰めかけたファンに最上のエンターテインメント空間を提供する上で、天然芝は必要不可欠なものなのだ。

ドジャースやレッドソックスなどメジャーリーグ7球団でプレーした野茂英雄は、かつてこう語っていた。

「天然芝は人工芝に比べるとずっと弾力性がある。地面に衝突した時のショックをやわらげてくれるだけでなく、足への負担も軽減してくれる。それほどばかりかスライディングをした時に、人工芝は時として火傷を負うことがあるが、天然芝の場合は、そんなこともない。

つまり天然芝なら、選手はダイビングも含めて思い切ったプレーをすることができる。ケガの心配がないから、ボールに向かって一直線に突っ込んでいくこともできる。よく、メジャーからやってきた外国人選手が、日本にきて手抜きをするよ

うになった、という人がいる。これは間違っていない。(人工芝のグラウンドでは) やりたくてもできないんです」

その意味でカープの復活は、ボールパークと呼ばれるようになる球場を持つことで初めて可能になったということもできる。

ちなみに旧本拠地の広島市民球場の最後の年(08年)の入場者数は約132万人。翻って新球場の初年度は約178万人。順位は4位から5位に落ちたにもかかわらず、入場者数は増えているのだ。これは新球場の魅力以外の何物でもない。

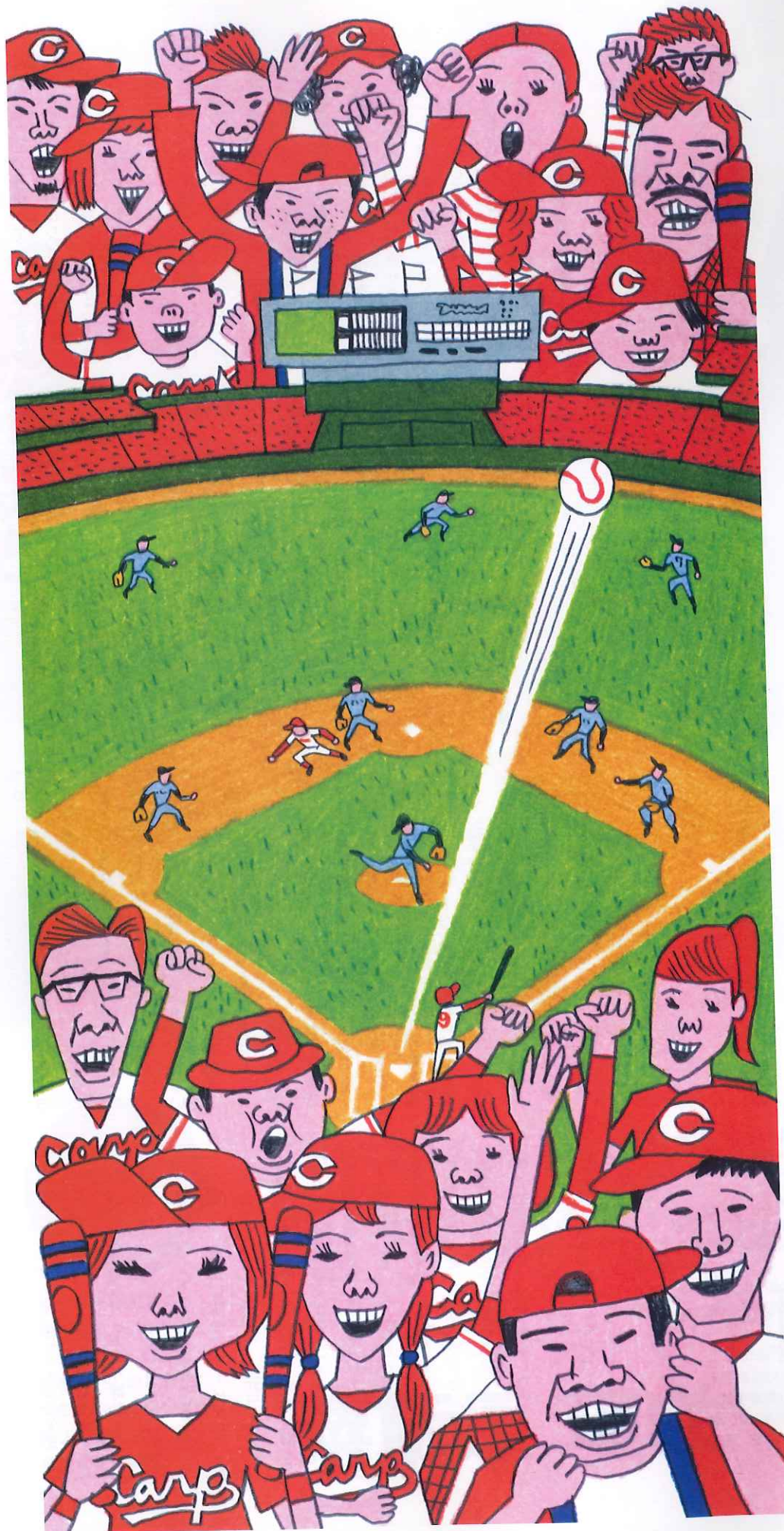
この3月には天然芝の全面張り替えや土質の強度化など全面的な改修工事を行った。実際にグラウンドでプレーしている選手たちの意見を取り入れたことで、新球場の魅力は、さらに増したと言えるだろう。

25年間も優勝から遠ざかりながら、なぜ、かくもカープは地元から愛されるのか。それはカープの歴史が広島戦の戦後復興と重なるからである。

カープがセ・リーグへの加盟を認められ、初めてペナントレースを戦ったのは1950年。この年は勝率2割9分9厘で最下位に終わった。

球団創設以来、最大の危機は球団創設2年目に訪れた。親会社を持たないチームゆえ資金が底をつき、選手の給料も遅配となった。甲子園で開催されるトーナメントへの遠征費もままならず、選手たちが「甲子園まで歩いていこう」と声を上げたというエピソードも残っている。

広島カープが四半世紀ぶりの優勝を目指し、快進撃を続けている。8月18日現在、2位巨人に7ゲーム差を付けており、この号が出る頃にはマジックナンバーが点灯しているだろう。
強ければ客も入る。1試合平均の観客動員数は過去最多の2万8844人(前半戦了時点)。本拠地のマツダスタジアムのスタンドは試合のたびに真っ赤に染まる。
地元のシンクタンク中国電力エネルギー総合研究所の調査によると、カープの広島における経済効果は2015年実績で248億円。優勝すればそれを大きく上回ると見られている。
「カープ女子」なる言葉がメディアをにぎわずようになつたのは、カープが16年ぶりにAクラス入りした2013年あたりからだ。なぜ、これまでプロ野球とは縁もゆかりもなかった彼女たちがカ



イラスト●北村ケンジ

開幕前の3月には、ついに大洋ホエールズ（現横浜DeNA）への吸収合併が決定する。広島のみならず野球の灯が消えかけたのだ。
ここで立ち上がったのがカープの初代監督・石本秀一である。地元の名門・広島商出身の石本は先頭に立って募金活動を行い、球団存続への流れ

をつくった。これが世に言う樽募金である。この樽募金はしばらく続いた。
石本は語っている。
「いまカープを潰せば、日本で二度とこのような郷土チームの姿を見ることはできないでしょう」
地域密着とはJリーグの創設に尽力したJリー

グ初代チエアマン川淵三郎が唱えた経営理念だが、Jリーグが誕生する40年以上も前に、すでに広島では、この理念が根付いていたのである。
首都圏への一極集中化が懸念される昨今、ローカル球団の雄である広島カープの躍進は、地方に勇気を与えるに違いない。
(敬称略)

地域情報満載！地域創生のための総合情報



地域人 CHIKIJIN 第13号

おかげさまで1周年！

特集

紀の国・和歌山の

Wakayama Prefecture

自然と人と食

対談

仁坂吉伸知事×清成忠男

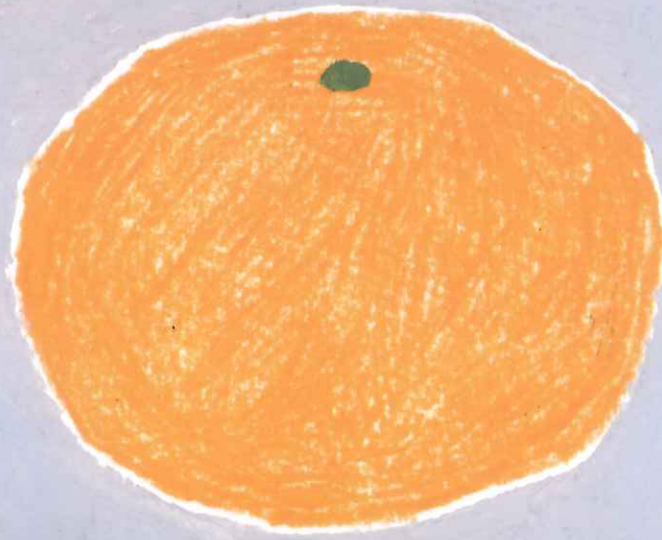
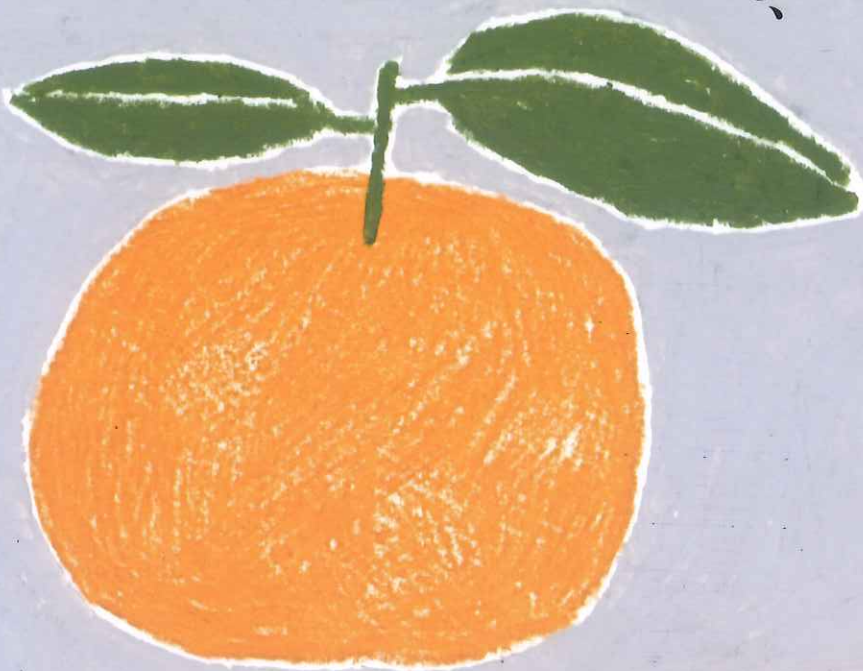
大正大学地域構想研究所所長

寄稿

植島啓司、

いしいしんじ、

森枝卓士ほか



巻頭インタビュー

伊東豊雄

建築家

連載

人間と自然資源

[ドイツ・エムシャーパーク]

松平定知の歴史散歩

[紀州・高野山・九度山]

豪華連載陣

養老孟司

清成忠男

清水慎一

涌井雅之

小峰隆夫

島蘭進

河合雅司

野田文隆

二宮清純

ほか